

発掘現場通信 その2

平成22年度の発掘調査が はじまりました。

6月中旬より、今年度の発掘調査が始まりました。現在行っている地点は、水路改修予定地と発掘地の整備にともなう調査です。水路改修予定地では、大きな石がいくつか見え始めてきており、中世の石垣が残っているかどうか注目したいと思います



なお、水路が調査などの関係上、にごる場合がございます。たいへんご迷惑をおかけいたしますが、どうぞご協力、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

←発掘地の整備にともなう調査
近年の土地改良の法面がありますが、これを取り除き、中世の石垣などを出していきます。



水路改修予定地の調査→
こちら、近年の土地改良の法面を取り除き、その下に残る中世の石垣や水路を調査します。



世界遺産へ 向けて

白山市立鶴来博物館にて、 特別展『白山への道 - 白山の雷の鳥 -』が開催！

世界遺産をともしめざす石川県白山市の鶴来博物館(白山市鶴来朝日町81)で白山に関する特別展が開催されます。展示の内容は、白山の雷鳥に関する江戸時代からの文献や絵画、白山の雷鳥がデザインされた鎮火符、雷鳥の剥製・羽など約50点あまりの資料が展示されます。特別展の期間は、7月3日(土)～9月5日(日)です。入場料は大人200円、高校生100円です。お問い合わせは、電話076-273-1522まで。なお、休館日は毎週月曜日(祝日の場合は翌日休館)です。

平泉寺かわら版



No.21 (2010年6月号)

【発行】
勝山市教育委員会史蹟整備課
【発行日】
平成22年6月24日
【ご意見・ご要望は下記まで】
電話:0779-88-8113(直通)
メール:shiseki@city.katsuyama.lg.jp

発掘現場通信 その1

キセキレイの子育て

石垣の間に何かいる？

先月号で少しお伝えした発掘現場の整備地で、キセキレイが巣をかまえ、子育てしていることがわかりました。気づいたのが、5月の終わりごろ。石垣の図面をとっていた作業員さんから一報が…。「鳥の巣と卵がありますよ～」

「鳥の巣？どこ、どこ！」と興味津々に見に行くと、「えっ！こんなところに！」石垣の石と石の間のせまい空間に鳥の巣が。そして、ちっちゃな卵。

あれっ、親はどこへ行ったのか…。ふと気がつくと、頭の上で小さな鳥がうるさく飛び回っているではないか。どうも僕たちは卵をねらう危険人物らしい。少し離れると、無事巣へ戻ってきました。



赤丸のところに巣が…

子育てがんばって！

それにしても、こんなところによく巣を作ったなあ。毎日のようにパワーショベルが動き、ダンプが走り、「屈強な」男どもがうろちょろしてるのに…。そうこうしているうちに、いつのまにかヒナがかえっているではないか。子育てのおじゃまだけど、こんなことめったにないので、記念写真とらせてね！



親鳥が帰ってくると、一斉にえさをねだります。



親鳥がいないときは、静かにじっとしています。

この後、ヒナたちは、6月の中ごろには巣立っていったようです。今ごろは、ヒナ全員が無事に大空を羽ばたいてほしいと思います。

特集・発掘から見える「計画性」

一たぐさんの人が一緒に暮らすために平泉寺が考えたことー

今から400年～500年前、中世平泉寺の姿を想像してみましょう。お堂や塔、白山神社が建ち並んでいた神聖な空間のまわりには、「六千坊」と言い伝えられてきた、お坊さんの屋敷(坊院)がありました。「六千」はオーバーながら、500～600ほどの屋敷はあったと考えられています。



石畳の通路に面して、出入口(人が立っているところ)があります。



右図は、四角に囲った部分の拡大図。

発掘調査の進む、平泉寺南谷の東側をのぞいてみよう！

土塀跡に囲まれた部分(オレンジ色にぬったところ)が坊院跡。その外側の白い部分にも坊院跡がありますが、大きさなどが不明です。出入口と道に注目！



「こんにちは」「あら、どうも」。道をはさんだお向かいさんとおあいさつ。人の立っているところが、坊院の出入口です。屋敷の中がお互い見通せないように、出入口が少しずれています。これも綿密な計画がないとできません。

測ってみよう！

まず、道に面してつくられている出入口ごとの距離を測ってみましょう。左のページにある平面図を見てみる

と、出入口1と3の間、出入口3と5の間、出入口2と4の間、出入口4と6の間は、全て約24.3mであることが分かります。また、出入口8は、すぐ南にある十字路の交差点から24.3mです。また、他のものより長く見える出入口5と7の間は48.6mで、24.3mの倍であることが分かりました。

もうひとつ、石畳道や水路の幅も規則性がありそうです。これまで発見されが石畳道は、1.5m、1.8m、2.1m、3mといういくつかの幅があります。

平泉寺の土木技術

出入口の距離で使われている24.3m、石畳道の幅に使われている1.5mなどは、何を意味するのでしょうか。この数字は、1尺=30.3cmで割ると、24.3mは80尺、1.5mは5尺というように、当時の平泉寺の土木技術が「尺」という単位で行われていたことが分かります。

石畳の整然と敷きつめられた様子や、端に使う石と真ん中に使う石を、形をしっかりと見て、その場所にふさわしく、うまく使い分けているようですので、相当注意深く作業を行っていることが想像されます。

研究と実践の場

中世の大きなお寺は、今で言う大学のようなところでした。平泉寺では、おそらく算術(数学のようなもの)や土木技術の研究と実践が盛んに行われていたのではないのでしょうか。

たぐさんの人が暮らすには？

僧侶の住宅が密集して建つためには、それぞれが好き勝手に土地を造成しては不可能でしょう。しっかりとした計画に基づいて、造成を行っていかねばなりません。

それでは、これまでの発掘調査からは、このような「計画性」が分かるものが出てきているのでしょうか。



整然と敷きつめられた石畳道も法則が...